



Koryo 雲 High School

〒031-0011 青森県八戸市田向二丁目2番6号 / 電話 0178-44-3866 / FAX 0178-43-9077

https://koryo-high-school.com / メール koryo@chibagakuen.ac.jp

ドラム・バンドクリニック



6月7日(土)、八戸工業大学第二高等学校を会場として行われた3校合同のドラム・バンドクリニックに軽音楽部が参加。参加校は、八戸聖ウルスラ学院高等学校、八戸工業大学第二高等学校、本校の3校。講師は、自身もドラマーとしてプロや音楽雑誌の編集などで活躍された経験のあるYAMAHHAの森山様が務めた。午前は、ドラムについて参加者全員で学んだ。ドラムはバンドの根底、リズムセクションの要であり、バンド全体の土台となる重要な役割をなす。ドラムを理解することが、バンドの理解に繋がるとし基礎から教えていただいた。本校のドラムを担当している村木穂乃さん(1年・東中学校出身)は、「講師の先生や他校の生徒との交流でいろいろなことを教わり、勉強になりました。また、講師の先生から直接、『叩けないリズムがある場合は、口でリズムを言えば叩けるよ』とアドバイスをいただき、リズムが取りやすくなりました。学んだことを今後の活動に生かしていきたいです」と感想を述べた。午後は、各校のバンドが演奏し、助言をもらった。生徒たちは他校の軽音楽部の生徒からたくさん刺激と元気をもらい、有意義な時間を過ごした。

【演奏】Punny Bunny (ELLEAGARDEN)

- Vo.&Gt. 村田 翼(2年・湊中学校出身)
- Gt. 野田 愁斗(2年・豊崎中学校出身)
- Ba.&Co. 貝吹 真広(2年・明治中学校出身)
- Dr. 磯谷 雪風(3年・白銀中学校出身)



SNS講習会



6月9日(月)、八戸警察署から原様をお招きしSNS講習会を行った。SNSを利用するにあたって、自分自身のリスクを自覚するとともに、友人や社会とのかかわりの中で起こりうるリスク、その対処方法について学んだ。便利さゆえについ利用してしまう人が多いインターネット。しかし、特性を理解していないとトラブルに見舞われる危険性が高い。インターネットの特性を知り、法律・ルール・マナー・モラルを守って使用することの大切さを改めて全校で確認した。本校では、毎年この時期に行っている。

挨拶運動



6月9日(月)から12日(木)、保護者の方々にご協力いただき挨拶運動を実施した。生徒の中には、大きな声で挨拶する者、恥ずかしがって小さく会釈をする者がいたが、参加した保護者たちには、生徒の普段の様子を見ていただけだ。短期間での実施となったが、生徒、保護者が朝の挨拶を交わし、一日を過ごす互いの活力をもらった活動となった。

調理実習

1、2年生が調理実習を実施。家庭総合の授業の中でも生徒たちが楽しみにしている実習である。作ることはもちろん「食べる」ことは生涯続く生活の一部。調理の基本を学ぶだけでなくクラスメイトとの共同作業や後片付けを通して社会性や責任感を養うことも目的としている。今回のメニューは、1年生は、鶏の照り焼き・ほうれん草のお浸



し・豆腐とわかめの味噌汁、2年生は、きのこの鶏肉のクリーム煮・トマトときゅうりのサラダ・スープジュリエンの三品ずつ作成した。松川颯蒼さん(1年・沖館中学校出身)は、「実家では洗いや食事の後片付けの手伝いはしていましたが、今は下宿をしていることもあり、久しぶりの調理でした。調味料の分量と鶏肉にしっかり火を通すことに注意して完成させました。みんなで美味しくいただきました」と感想を述べた。

SC講話

〜現実を変える言葉の使い方学ぼう〜
6月16日(月)、本校スクールカウンセラー石岡れい子先生による3年生対象の講話が行われた。テーマは、「3年生心理学」で、進路に向けた言動への注意点やアドバイスを話して下さった。私たちの脳の中には、ナビゲーションシステムがあり「脳幹網様体賦活系(RAS)」といい、外界からの情報を選択的に伝える役割を担っている。RASがその人にとって必要なものと必要でないものに振り分けており、99パーセントがゴミ箱に捨てられるという。勉強したことを自分にとって必要な情報を残すためには、どうしたいのか、どうしたいのかをはっきりと決めるといふ目標設定の仕方やつぶやきを変えることが有効である。例えば、「面白くない」と言うと、楽しい情報が捨てられ、「面白くない情報が残される。」「分からない。無理」と言うと、分かるためのヒントである情報や自分の持っている力が捨てられる。このように、RASの使い方方を間違わないため、「『しらないように』』という発想ではなく、『『する』』という考え方で未来を思い描いていくことが大切である。お話の中で、達成脳の作り方クイズや大谷選手が書いたマンガラチャートも紹介され、3年生にとっては目標実現に向けて本格的に動き出すきっかけとなったようだ。講話後、



末次隼士さん(3年・横浜市立荏田南中学校出身)は、「あと一年もない高校生活を何気なく過ごすのではなく、卒業までのこと、就職後のことを思い描き、なりたいたい自分になるために目標を立てて生活していきたいです」と述べた。

全校バス遠足



6月27日(金)、東八甲田家族旅行村にて全校パーベキュー遠足を行った。生徒たちは、各班共通の牛肉・豚肉・ウインナーセットの他、自由に持っていた食材に舌鼓を打った。女子はマシユマロやチョコレートフォンデュなどのデザート系、男子は焼鳥、カルビに魚介とワツリ系をそれぞれ楽しんだ様子。コロナ以降、久々のパーベキュー遠足となったが、今回初めて挑戦したのが、竹棒にぐるぐる巻き付けたパン生地を炭火でじっくり焼く棒パン。一人で三本頼んだという田邊慧さん(2年・横浜市立中川西中学校出身)は「焼き上がるまで意外に時間がかかりました。少し焦りましたが、ふんわりと焼き上がった焼きたてパンは味、香りとも大満足でした。楽しすぎてパーベキュー遠足を毎年やってほしいです」と笑顔だった。

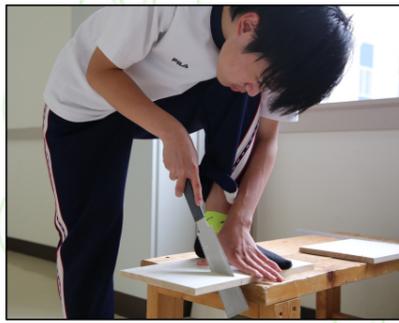
Do it yourself 6月11日(水)実施

木エコーコース

1年 橋本 蓮斗
(東中学校出身)

今回の講座目標

「完成させる」にしまし
たが、達成できませんでし
た。しかし、ノコギリ、ド
ライバーなどの道具を使い、
安全に作業する
ことができた



普段、物を組み立てたりした経験がないた
め、初めは不安が大きかったです。しかし、
説明を聞いていくうちに、徐々に興味が湧い
てきました。作業の説明をしっかり聞き、
級友と協力しながら準備をしました。木の長
さを測ってノコギリで切る作業は、集中力や
体力を使い、とても大変でした。お互いに役
割を分担したり、声を掛け合ったりしながら
進めていきました。一人でやるよりも、友人
と励ましあいながら行うことで、作業への気
持ちも上がり、楽しみながら頑張ることがで
きました。途中、少し掃除をし、後の掃除の
負担を減らす工夫もできました。また、後片
付けでは、他の人の作業場も手伝い、周りを
見ながら行動することができました。講座を
通して、自分の興味の幅を広げることができ
たり、友達との仲を深めたり、
改めて人と協力して物事を成し
遂げることの楽しさを知ること
ができました。他の行事や講座
も全力で楽しみたいです。

せんべい焼き・どんぐりアートコース

2年 佐々木 心花 (大館中学校出身)

私はせんべい焼きとどんぐりアートの講座
に参加しました。仲の良い人と同じ講座だっ
たので、緊張はしたものの落ち着いて行動す
ることができました。種差少年自然の家につ



いて、すぐせん
べい作りが始ま
りました。施設
には一度中学生
の頃に行ったこ
とがあったので
懐かしかったです
。各班に分か
れて生地作りを
し、焼く作業に
入りました。順
番にせんべいを
焼いて行きまし
たが、他の人の

せんべいはパリパリ
なのに、私のはもち
もちに仕上がって
ました。それでも
焼きたてのふくら
みとおせんべいは
格別でした。昼食後、
どんぐりアートに挑
戦しました。木の実
や貝殻をあしらった
フォトフレームは、
時間内に完成し、み
んな個性あふれる華やかなで
きました。私は、
少し失敗してしま
い、時間配分を間違えてい
たこともあり、中途半端に終わ
ってしまいました。残念
なものでした。次の講座では
効率よく作業できる
ようにしたいです。



縄文土器・土偶コース

1年 菊地 星風 (階上町立階上中学校出身)

土偶、土器作りは人生初の経験なので、実
のところかなり緊張していました。しかし、
ボランティアの方の助けもあり、何とか作り
上げることが
できました。
土器作りの、
粘土を切る、
こねる、くっ
つける作業を
し、形作られ
ていく土器を
見ているだけ
でも高揚感を
覚えました。
自分の手で作



り上げていく感覚には、いつも心躍ります。
午後は、出土品などの展示を見に行きました。
小学校以来に見た景色は、懐かしさも新しさ
も感じました。最後に見た合唱土偶は、国宝
にふさわしく神々しく、その神秘さに圧倒さ
れました。時を越え、再び人々の前に現れた
と思うと、なんだかロマンを感じます。

そばコース

2年 長畑 洗希 (小中野中学校出身)

今回、初め
てそばを作り
ましたが、そ
ばを一から作
ることは難し
いと思いまし
た。生地は、水分量がポイントで、
なかなかまとまらず、手にたくさ
んくっついて大変でした。伸ばす
作業ではちぎれたり、切る作業で
は、太さがバラバラになったりと
苦戦しました。次に作る時は、ゆっくりと
作りたいと思います。それでも、みんなと助
け合いながらそばを作れたことは良かったで
す。学校では、ゆで時間が足りず生っぽかっ
たですが、お土産用のそばは、家族に美味し
いと言って食べてもらいました。



3年 巻 勇樹 (第一中学校出身)

去年もそばコースを体験し、美味しかった
ので今回も選びました。最初は、そば粉と水
を混ぜてこねる作業でした。しかし、上手く
まとまらず、手についた生地に手間取り時間
がかかってしまいました。生地を伸ばす作業
は、均等な厚みと滑らかな手触りでイメージ
通りできました。続いて切る作業となり、私
は食べ応えが欲しかったので、太めに切りま
した。切ったそばをゆで、楽しみにしていた
試食の感想は「美味しくない」でした。そば
同士がくっつき味のない粉っぽい味でし
た。この反省を生かして、お土産用はできる
だけ細く切りました。今回のそば作りの味は
大失敗でしたが、他の人と協力して作るこ
とができたこ
とには大満
足です。今
後の学校生
活にも生か
していきたい
です。



ダッチオーブンコース

3年 高橋 愛子
(第三中学校出身)

ダッチオーブンは、
鉄でできた鍋で、蓋の上
にも炭を置くことができ、
全方向から温められると
いうものです。その特性
を生かし、早く料理が完
成したと思います。しか
し、火力調整が難しく、こ
はんが焦げたり、
スープの汁が蒸発して少な
くなってしまっ
ともありまし
た。私の主な
仕事は火おこ
し、荷物運び、
後片付けです。
特に大変だっ
たのは、火お
こしと後片付
けです。ガス
バーナーで炭
に火をつける
のですが、な
かなかつか
ず、炭全体に
酸素を取り込
ませなければ
ならないため
、うちわでひ
たすらあおい
でいまいま
した。続けな
ければ火が消
えてしまうた
め手がとても
疲れました。後
片付けでは、
焦げたこはん
が取りづらか
かったです。洗
った後は、
シーステーク
という作業が
ありました。鍋
をしまる前に
油を薄く塗る
という工程で
す。これは、
錆びから守り
、長く使える
ようにするこ
とです。向陵
も買い替えず
十年以上使
っていること
が驚きました
。また、班の
活動は、とて
も効率よくで
きたのではない
かと思いま
す。使い終わ
った食器や道
具を洗い、
片付けたり、
早く終わるよ
うに先生に聞
いて行動する
など協力でき
ました。今回
作ったレゾ
フは、炊飯器
でもできそう
なので家でも
やってみたい
です。



です。今後
も率先して
動けるよう
な場面をも
と増やして
いきたいと
思いました。

NEW プッシュピン・ミサンガコース

1年 苫米地 柚杏 (北稜中学校出身)

初めてのプッシュ
ピンとミサンガを
作りました。プッ
シュピンは、各自
が選んだ絵柄にビ
ズとプッシュピン
を均等な間隔で刺
していくものでし
た。人差し指や、
腰、肩が痛くな
りましたが、集中
して取り組むこと
ができました。
絵柄にピンを刺し
終わったらフレ
ームを飾りつけし
て完成です。と
ても見栄え良く
作ることができ
ました。次にミ
サンガを作りたい
です。糸を二色選
び、二本ずつ取
り編んで行きた
い。私は、白と
緑を選び、歪ま
ないよう意識し
てきれいに編む
ことができました
。途中、二回編
むところを三回
編んでしまっ
たり、一部歪
んだりしまし
た。手に編めた
と思います。二
つとも上手に
作ることができ
て嬉しかったです
。



初めてのチャレンジ講座は、
とても楽しかったです。午前は
プッシュピンを作りました。初
めてやり、指が少し痛くなりま
したが、見た目もそれなりにで
きました。周りをリボンなどで飾りつけする
と、さらに可愛くなりました。午後はミサン
ガを作りました。ミサンガは力加減が重要で、
ゆるく編んでしまつと隙間ができてしま
うし、逆に強く編んでしまつと全体がく
るくるねじれてしまつのでとても大
変でした。私は、少し強く編んでしま
い、ねじれて一本も完成させ
ることができませんでした。それが
とても悔しくて紐を一組もら
って帰りました。母がよくミ
サンガを作っているのを見て
いたので、簡単に作れると思
ってしまいました。しかし、
実際にやってみると、見るの
とやるのでは全然違うと実感
しました。以前、自分ででき
ていたことが最近よくあり
ます。やはり日々続けてい
くことが大切だと思いました
。今後のチャレンジ講座でも
、今まで体験したことがない
ものに挑戦していきたいです。